

## 県立高等学校における現状について

第1回の委員会で、新たな時代に対応した高等学校教育についていただいたご意見に関して、これまで県立高等学校では、以下のように取り組んできました。

## 「地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業」における取組

- ・ 1学年3学級以下の小規模校を実践パイロット校に指定して、生徒が地域課題や地域の特色ある産業を題材に地域住民や職業人と関わりながら課題解決に取り組むことを通じて、これからの社会の変化に対応できる「生きる力」を育み、将来地域で活躍する姿を思い描くことができる高校生の育成をめざした取組を推進

## 【実践パイロット校】

白山高等学校、飯南高等学校、昴高等学校、南伊勢高等学校（南勢校舎、度会校舎）  
鳥羽高等学校、志摩高等学校、水産高等学校、あけぼの学園高等学校、紀南高等学校

## （例）志摩高校の実践

- ・ 「総合的な探究（学習）の時間」を利用して、全生徒が3年間にわたって地域で活動し、地域について考える探究活動を実施。「志摩学」（1年生）では志摩市内各所へのフィールドワーク、「志摩学」（2年生）では市内の各事業所でのインターンシップで地域の産業を体験、「志摩学」（3年生）では、「未来に残したい地域のタカラ」を見つけそれに関わっている大人との対話を通じて志摩市の未来について考察
- ・ グループでの考察、クラス発表、学年発表等を経て、全体の成果発表会を実施して全校で学習の成果を共有
- ・ 地域課題解決型キャリア教育の一層の定着に向けて、教科横断的により多くの教職員が関わり、生徒が達成感や成功体験を積み重ねることで自身の成長を実感するとともに、教職員や地域関係者等の大人も生徒の変容などに触れることが必要
- ・ コロナ禍の中で感染症への諸対策を徹底するとともに、学校と地域の一層の連携により生徒が地域で学ぶ仕組みを継続していくことが必要

## ○ 「高校生地域創造サミット」の開催

- ・ 高校生が地方創生や地域活性化の重要性について理解し、地域のことを主体的に考え行動する意欲や地域の課題解決に取り組む姿勢を身につけられるよう、フィールドワークや他地域の高校生とのディスカッション等を実施

平成29年度：南伊勢町

平成30年度：鳥羽市

令和元年度：紀北町

令和2年度：松阪市飯南・飯高地域

（班別ディスカッションと発表会は、オンラインで実施予定）

## 桑名工業高校「日本版デュアルシステム」における取組

- ・ 学校での学びと企業における実習とを交互に実施
- ・ 1年次の2月、希望者を対象に5日間の短期企業実習を行い、2、3年次でも更に企業実習を続けるかどうか、その意思を確認したうえで、5月下旬から学年末の間、特定曜日（週1回）に企業で実習
- ・ 参加した生徒は「自分が製造に関わった製品が実際に社会で使用されるので、緊張感と責任感を持ってものづくりができた」等意識が高揚

- ・ 入学時にデュアルシステムに魅力を感じていた生徒の中には、部活動への参加との選択や面接等繰り返す中で参加をためらうようになり、2年次からの実習への参加を見送る生徒が一部に存在

#### 四日市工業高校ものづくり創造専攻科での取組

- ・ グローバルな視点をもった地域産業の担い手として、生産現場のリーダーとなる人材の育成をめざし、平成30年に新設
- ・ 企業での研修や技術者による授業、大学での英語講座の受講など高度で卓越した専門教育、産業界と密接に連携した実践的な教育を実施
- ・ 「協働パートナーズ」(専攻科の教育に協力いただく企業)73社と連携し、専攻科2年生ではデュアルシステム(長期企業実習)や修了研究を実施

#### 農業学科におけるGAP(農業生産工程管理)の取組

- ・ 県内の農業高校5校(四日市農芸、久居農林、相可、明野、伊賀白鳳)の生徒が、農産物の安全や環境への配慮、労働安全、国際的に通用する農業についての実践力を身につけるため、GAPの認証を取得し、GAPを生かした教育を推進。グローバルな視野、コミュニケーション力、主体性、課題解決力を育成
- ・ 生徒は、汚染防止のための施設改修や農薬管理庫の整備などに取り組むとともに、「課題研究」の授業などで、審査に向けてのスケジュールや、交差汚染を防ぐための農場区分け図面、生産工程表を作成
- ・ 相可高校と明野高校では、全国の高等学校で初めてJGAP家畜・畜産物の認証を取得し、GAP認証取得を生かした流通や販売の学習を実施
- ・ 各校では引き続き、認証に向けた取組を進める中で、地域の農業の課題を発見し解決方法を考える活動を推進

#### スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組

- ・ 先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的能力や科学的思考力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成
- ・ 「科学への夢」「科学を楽しむ心」を育み、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことをめざし、大学や研究機関等とも連携して先進的な理数系教育を実施して、魅力的なカリキュラムを開発

#### 【令和2年度指定校】

(松阪高校(平成28~令和2年度))

研究概要:「新しい時代のニーズに対応した『課題探究能力育成プログラム』の開発」をテーマとして、生徒の課題探究能力を育成するための学校設定教科「探究」における指導方法、評価方法の研究・開発、および大学の研究室訪問や小中学生向け実験講座の開催等課題探究能力を高めるための諸活動の研究・開発を実施

(伊勢高校(平成29~令和3年度))

研究概要:「伊勢志摩から未来を切り拓き、国際舞台で活躍できる科学技術系人材の育成」をテーマとして、課題探究能力を育成し高める指導方法・学習評価の研究・開発、および国際科学オリンピック等の世界大会で活躍できる科学技術系人材の育成プログラムの研究・開発を実施

(四日市高校(平成30~令和4年度))

研究概要:「三重・四日市から世界へ!新たな価値を創造する国際科学技術人材の育成」

をテーマとして、新たな価値創造(イノベーション)を生み出す学校設定科目「探究」の研究・開発、ならびに国際舞台で活躍するために必要となる資質・能力を育成する学校設定科目および地域の工業系企業への訪問等諸活動の研究・開発を実施

(津高校(平成30~令和4年度))

研究概要:「探究活動を核とし、全ての教育活動へつなげる科学教育システムの構築」をテーマとして、これまでの探究活動をさらに深化させた学校設定教科・科目の研究・開発、探究的な学びを全ての教育活動につなげるシステムの研究・開発、および自然科学分野に対し深い興味・関心を持つ児童・生徒を集め相互に刺激を受けながら資質・能力を高め合うためのシステムの構築等を実施

(桑名高校(令和元~令和5年度))

研究概要:「地球の未来への先駆者となる科学技術人材を創出する『桑高SGPプログラム』の開発」をテーマとして、SDGsの17の目標に対して研究テーマを設定する等課題探究能力を育成する学校設定科目「探究」および諸活動の研究・開発、ならびに科学技術人材を創出する学校設定科目「研究」および諸活動の研究・開発を実施 (SGPは「Solution for Global Problems」の略)

(上野高校(令和元~令和5年度))

研究概要:「地域と共に創る『上高みらい探究プログラム』~伊賀から世界へ~」をテーマとして、地域から国際舞台で活躍する人材を創出する学校設定科目「みらい探究R」および諸活動の研究・開発、ならびに地域と共に課題探求能力を創り出す学校設定科目「みらい探究F」の研究・開発を実施

大学との連携による単位修得

- ・ 三重県内の高校生が、国立大学法人三重大学で「高大連携授業」として開講している講座を受講し所定の成績を修めた場合に、当該大学での単位として修得
- ・ 当該単位は、在学する高等学校での単位としても認定

○ 「みえ探究フォーラム」の開催(R3 2/14)

- ・ SSH指定校等からなる「探究コンソーシアム」に参加する学校を中心として、生徒が日ごろ取り組んでいる課題研究を発表
- ・ 探究的な学びに興味・関心を持つ生徒が集まり互いに切磋琢磨する機会となっているとともに、県内における認知度が着実に高まり各校の課題研究のレベルアップを促進

「進学対策HYPER講座」の実施

- ・ 大学進学を希望する県立高等学校に在籍する2年生が対象
- ・ 学校の枠を越えて互いに切磋琢磨することによって、高い目標をもち主体的に学び続ける意欲や態度を身につけられるよう、国語、数学、外国語(英語)の問題演習等を学習

「国際科学技術コンテスト強化講座」の実施

- ・ 県内のすべての高校生を対象に、大学教授や研究者等を講師として、数学オリンピック等の「国際科学技術コンテスト」に向けた対策講座を実施
- ・ 学校の枠を越えて、志と夢を持ち探究心にあふれた生徒たちが集い、互いに刺激し合う機会として、生徒の志を高めることに寄与

令和2年度実施講座 生物(10/24)

情報(11/14) オンラインで受講

地学 (12/ 5) オンラインで受講  
 数学 (12/12) オンラインで受講

○ 基礎学力の定着・向上に向けた取組

(菰野高校)

- ・ 同校の生徒が3年間で身に付ける基礎学力を、「地域社会の担い手として生涯学び続けるために必要な力」と定義し、国語・数学・英語の各教科の特質に応じて具体的にどのような能力に当たるかを検討
- ・ その定着・向上を図るための教育課程の編成や、指導方法等の研究および授業改善等を行うとともに、これらのPDCAサイクルを行う仕組みを構築

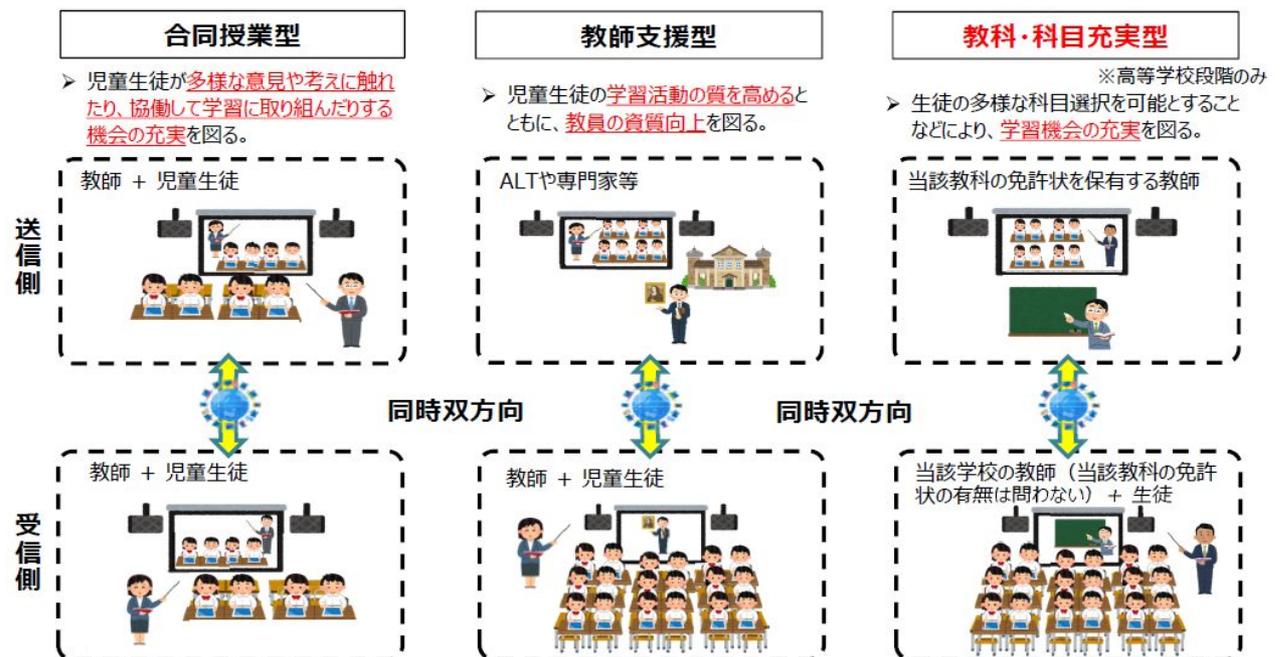
(桑名北高校)

- ・ 同校で育みたい資質・能力を、生徒たちの実態に基づいて「7つの力(聴く力、話す力、書く力、読み取る力、考える力、前に踏み出す力、協働する力)」として具体化
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、「生徒と共有する授業のための40のスタンダード項目」を作成
- ・ 生徒たちの3年間の生活を「学力向上のための3年間の学力伸張ストーリー」として整理

○ 遠隔授業の実施

- ・ 多様な科目選択を可能にし、少人数講座においても多様な意見や考えに触れたり、協働して学習したりすることを目指して、南伊勢高校南勢校舎と度会校舎の間で、平成29年度から実施
- ・ 令和元年度9月～1月の間、保健、古典、化学基礎、数学 で、「合同授業型」の遠隔授業を実施

遠隔授業の分類



ICTを活用した学習活動にかかる取組

令和2年度中に整備するICT環境(無線LAN、電子黒板機能付きプロジェクター、

学習者用情報端末)を活用し、映像資料の活用や、意見・回答の即時共有等を通じた効果的な協働学習等を行った授業や授業で用いた教材を県教育委員会が収集し、各校に普及

ICTを活用した教育・オンライン教育に係る効果検証の取組

- ・ 全国知事会「これからの高等学校教育のあり方研究会」における検討事項の一つとして、ICT、オンラインの活用に関する効果とともに、高等学校における「一人一台端末の整備」「家庭での端末活用」に向けたオンライン・ICT環境の活用方策を検証
- ・ AIドリルを活用した授業を複数の単元で実施、活用したクラスと活用しなかったクラスとを単元テスト等により比較
- ・ 慶應義塾大学中室研究室と連携し、本県のほか、長野県(全国知事会幹事県)、熊本市等が参加

【本県の参加校】水産高校、尾鷲高校

経済産業省「未来の教室」実証事業の取組

- ・ 様々な個性の子どもたちが未来を創る当事者になるための教育環境づくりを目的として、連携企業が開発したSTEAMプログラム(教科横断の課題解決型学習)を実施し、生徒の論理的思考力、協働性等の資質・能力を向上

【別紙】参照